

つづき あい 通信

「つづき あい通信」は、第2期都筑区地域福祉保健計画「つづき あい」を推進する地域の取組や、関連情報を紹介する計画情報紙です。

みんなで楽しく外遊び!

第9号

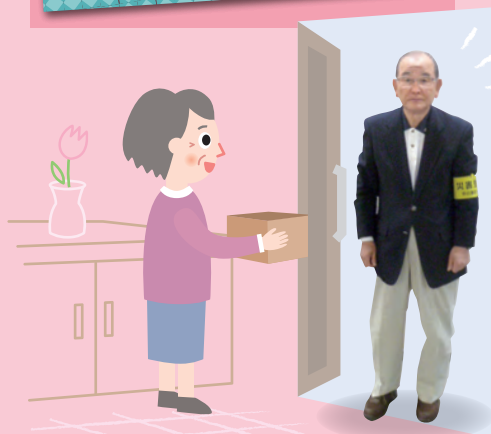


「共助」はできることから!

「お変わりないですか?」



生徒も頼もしいスタッフの一員



第2期都筑区地域福祉保健計画 「つづき あい」(地区別計画)

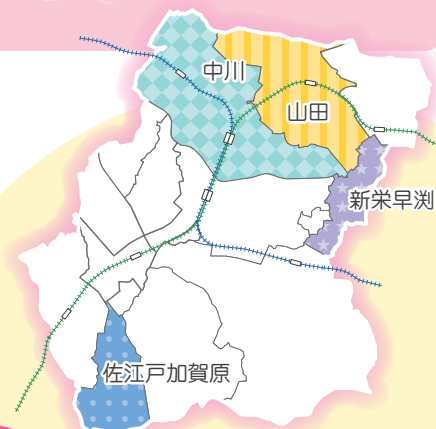
～地域の取組特集 4～

「地区別計画」とは、第2期地域福祉保健計画「つづき あい」※を構成する、連合自治会町内会エリアごとの行動計画です。地区別計画には、地域に特化した福祉保健課題やその課題解決に向けた目標が記載されており、「人と人とのつながりが実感でき、お互いにささえあえる地域づくり」を目指して、地域の皆さんや関係機関が一緒に取り組んでいます。毎年各地区で地域懇談会が開催され、地区別計画の推進に向けて地域の皆さんで話し合いが持たれています。

※裏表紙に詳細を説明しています

今回は

- ・山田地区
 - ・中川地区
 - ・新栄早刈地区
 - ・佐江戸加賀原地区
- の取組をご紹介します!



福祉保健活動に参加して地域とつながろう

～山田地区の取組～

地域の福祉保健活動が活発に行われています

山田地区では、山田連合町内会を構成している南山田町内会・北山田町内会・すみれが丘町内会の三つの町内会と山田地区社会福祉協議会（以下、山田地区社協）を中心に、地域のボランティアグループが連携しながら様々な活動に取り組んでいます。

山田地区社協が調査したところ、把握できたものでも200以上の活動がありました。対象者も乳幼児から高齢者までと多彩な取組を行っています。特に高齢者向けの活動が広く根付いていて、近年は子供や子育て世代向けの取組にも力を入れています。

活動への参加などであいさつを交わす機会を多く持ち、顔の見える関係づくりにつなげています。



高齢者を対象としたふれあいの会
「ふれあい友遊」



たとえば

山田富士公園での外遊び

山田地区社協の支援により、主任児童委員などがスタッフとして、未就学のお子様を対象に自由に遊ぶ場を提供しています。普段はお絵かき、ボール遊び、段ボールの電車ごっこなど、季節によっては水遊び、どんぐり拾い、たこあげなどをして自由に過ごしています。

子どもは、新しい遊びや新しい友達と出会う機会に、子育て中の親同士も知り合うきっかけになり地域のふれあいの場になっています。さらには、スタッフ同士の情報交換にも活用しています。

外遊びや地域活動へのきっかけづくりとして、地域のみんなで協力して活動を続けていきます。

「山田富士公園であそぼう！」

日時：毎月第2水曜日（1・8月は休み）
10時30分～12時（雨天中止）
場所：山田富士公園の柱時計周辺



時間がある時に
気軽に参加



初めての遊びも
できるかも

新しい友達と
一緒に遊べるよ



みんなそれぞれのやり方 みんなの目的は一つ

～中川地区「つづき そなえ」の取組～

じっくりしっかり話し合いました!

中川連合町内会では、災害時要援護者支援事業「つづき そなえ」の取組をどのように進めていくかについて、平成23年度から各町内会長を中心に、様々なことを話し合ってきました。

例えば、対象者の把握方法について、個人情報の取扱いについて、活動の取り組み方についてなど、どのようなやり方がより活動を進めやすいのか、色々な角度から意見を出し合いました。

その結果、連合町内会全体としては、要援護者の把握と訪問を行っていくこととし、具体的な活動は、各町内会ごとの状況に合わせて進めようということになりました。



◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ 中川連合町内会の各町内会の活動内容 ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

大瀬町町内会

対象者把握のためのアンケートは実施せずに、日ごろの結びつきを活かして、個別に要援護者としての登録意思の確認を行っています。



中川西町内会

災害時の援護希望者への訪問活動を行いました。その際に災害時用の保存食を配付し、関係づくりを行っています。



中川東町内会

要援護者宅を訪問する際に、一目で担当者と分かるよう、ワッペンと腕章を準備し活動を行っています。



牛久保東町内会

担当者の訪問時に、発災時の自分の無事を示すバンドナを要援護者に渡し、要援護者本人にも災害に対する意識を高めてもらっています。



牛久保西町内会

現在は、町内会の役員が活動の中心となっていますが、今後は、ボランティアにも訪問活動に参加してもらおうと検討しています。



牛久保町内会

16名の「見守りあい活動委員」が3か月に1回程度、要援護者宅を訪問し、対象者の状況を確認しています。



あゆみが丘町内会

「あゆみが丘ぎずな」と名付けて取り組んでいます。今後は、ぎずな部会員による訪問活動やボランティア研修などを予定しています。



今がスタート!これから大きく育てます

平成26年度が取組の2年目です。前年度始めた活動をさらに定着・充実させていくことで、各町内会の担当者と要援護者の顔の見える関係づくりを進めていきます。



日ごろからの支えあいが災害時にも役に立つ「共助」と「自助」をすすめる取組

～新栄早渚地区～

新栄早渚地区では、福祉保健に関する地域の生活課題の共有及び解決に向けての取組と、支えあいの地域づくりを目指して「新栄早渚地域支えあい連絡会」を開催しています。この連絡会において、災害時にも地域の中での支えあいが必要ということで、平成23年度から災害時要援護者支援事業「つづきそなえ」に取り組み始めました。要援護者を地域で見守る仕組みづくり「共助」を考える中で、自分でできることも考える必要があると気付き「自助」についても取組を進めています。



地域での取組（共助）

- 1 広報紙を作成し事業開始について地域の方に周知
- 2 災害時の要援護者登録カード（支え愛カード）の申請者募集と災害時ボランティア募集
- 3 毎年、要援護者登録カードの更新と更新時の登録者宅への訪問
- 4 災害時のそなえグッズの配布
 - ・ID情報キット（要援護者の登録者）
 - ・居場所を知らせる笛（全戸）
 - ・非常時持出袋（要援護者の登録者）
- 5 「地域懇談会」で、ボランティア登録者を交えて「日ごろから何ができるか？」についての話し合いを実施
- 6 マップ作成
 - ・いっとき避難場所等を記したマップ
 - ・災害時要援護者マップ



笛



ID情報キット



広報紙



マップの内容を検討しています



自分でできる取組（自助）

- 1 日ごろからのそなえ（3日分の備蓄）食料、飲料水（1人1日3リットル）等自ら生活できるように準備
家族との連絡の取り方を決めておく
- 2 自分の安全、家族の安全確認後いっとき避難場所に避難し
可能であれば、避難住民への協力



非常時持出袋



この取組が始まり、地域の人の意識が変わってきました。
日ごろから、①お互いに助け合わなければいけない。
②自分のことは、自分で守らなければいけない、と思う人が増えてきました。
今後は、隣近所同士が助け合える関係を目指していきたいと思っています。



新栄早渚連合町内会
会長 辻田 むつ代氏

アイデアを出し合い、福祉保健の取組が一步一步前進!

～佐江戸加賀原地区のネットワークづくり～

佐江戸加賀原地区では、地域の福祉保健活動のネットワークを作ることを目的に、「佐江戸加賀原地域支えあい連絡会」を定期的に開催しています。連絡会には自治会町内会、地区社協、民生委員・児童委員など地域の各種委員のほか、学校関係者、消防団や地域の福祉施設関係者などが一堂に会し、地区の福祉保健課題やお互いの活動を共有するほか、課題解決に向けた検討の場となっています。



地域懇談会の様子



子どもたちとの交流を!

三世代交流会に子どもたちを!



福祉保健課題を話し合う場を活用

連絡会に参加する民生委員から「子供会が解散していく中で、地域の子どもたちと交流を持つ機会がない」という意見があり、平成25年度の地域懇談会は、「子どもとのかかわり方について」をテーマに開催。参加者は自分たちの経験や活動を基にアイデアを出し合い、その中で出た「イベントの担い手として受け入れよう」という意見を受けて、地域の中学校に声をかけ、「三世代交流会」にボランティアスタッフを募りました。

『三世代交流会』で中学生が大活躍!!

夏・冬各回とも多くの生徒が自発的に参加してくれました。当日は大人顔負けの働きで、イベントを盛り上げました。

参加した生徒からは、「楽しかった」「また参加したい」という前向きな意見があり、さらに「色々な人たちと触れ合うことができて良かった」という嬉しい意見も。

迎え入れた大人も、生徒たちを「お客様」としてではなく、1つのイベントと一緒に作り上げる「仲間」として接しました。また、生徒の意見から担当の役割を増やすことができるなど、大人にも新しい発見がありました。

子どもたちには地域の行事に参加してもらうことで、自分のまちに愛着を持ってもらうとともに、今回の試みをきっかけに多様な年代がコミュニケーションの取れるまちづくりをしていきたいと考えています。



多くの参加者で賑わいます!



夏の会



* *

冬の会



一生懸命働く中学生たち

*

支えあい連絡会や地域懇談会で、それぞれの団体の課題や悩みを全体で共有することで、課題解決に向けた話し合いができ、地域全体で連携を深め、地域の取組が広がっていきます。また、団体の取組を共有することにより、お互いの活動を知るきっかけとなり、協力して取組を進められます。

今後も支えあい連絡会や地域懇談会などで地域のネットワークを作り、地区全体で取組を進めていきます。

★「地域福祉保健計画」を推進する、関係機関を毎号ご紹介します★

今回は「新栄地域ケアプラザ」です！



ご紹介します! 新栄地域ケアプラザ

新栄地域ケアプラザは、平成14年3月に都筑区で4番目に設立されたケアプラザです。横浜市営地下鉄ブルーラインの「仲町台」駅から、自然あふれる「せせらぎ公園」を通った先にあります。野鳥を眺めながら、お気軽にお立ち寄り下さい。皆様のご利用をお待ちしております。

マスコットキャラクター
『しんちゃん』

新栄のしん
安心のしん
信用のしん
で、『しんちゃん』です。
よろしくお願いします。



平成24年のケアプラザ祭りにおいて、皆様からの公募で誕生したマスコットキャラクターです。地域の皆様に愛していただけのように頑張ります。

福祉・保健に関する
相談支援をしています

【担当地域】

勝田町・勝田南1～2丁目
新栄町・早淵1～3丁目・茅ヶ崎町
茅ヶ崎中央・茅ヶ崎東1～5丁目
茅ヶ崎南1～5丁目

- 福祉に関する疑問について、まずはご相談ください。ケアプラザに来られない方には、訪問してお話を伺います。
- 介護予防に関する講座や権利擁護に関する講座を行っています。(出張講座あり)



皆様の活動のご紹介です



ボランティア活動



小学生ボランティア

サークル活動



舞踊サークル

主催事業



高齢者サロン



植栽ボランティア



囲碁サークル



子育てサロン

【お問合せ】 新栄地域ケアプラザ TEL045-592-5255 FAX045-595-3321

テーマ 「顔の見える地域づくり」について考えよう!

都筑区地域福祉保健計画推進委員会委員の川原美智子氏をコーディネータとして迎え、区内の3つの取組の活動者と取組支援者としてパネルディスカッションを開催しました。活動者からは、①地域の中での見守り活動と健康づくり②ボランティア体験から学んだこと③地域を知るためのアンケート調査報告、支援者からは、各取組に対しての支援方法等についての報告がありました。



総司会 岡 澄子氏



コーディネータ
川原 美智子氏

地域の中での見守り活動と健康づくり

地域で
見守ろう!

かちだ地区の見守り
ネットワーク

平成20年から孤立死防止を目的として、「おもしろネットワーク連絡会」を立ち上げ、地域で見守る仕組みを作りました。①緊急連絡先カード、安心カードを全世帯に配布するとともに、階段委員の役割を明確にする。②閉じこもり予防のために、「サロンひだまり」の開設。③災害時に備えて、全世帯の安否確認ができるマニュアル作成と訓練を実施。④要援護者にならないために、健康の維持が大事であると考え、誰もが気軽にできるラジオ体操を毎日実施。地域全体で、見守りと健康づくりに取り組んでいます。



中山 敏明氏



千葉 正敏氏

どの活動報告者・支援者からも、活動を「継続する」という言葉が聞かれ、継続することの難しさや大切さが伝わってきました。地域の取組は、無理なく地道に活動する必要があり、それが「顔の見える地域づくり」につながりますね。「これからも住み続けたい都筑」を目指すことを期待します。

新栄地域ケアプラザ
飯田 哲史氏

事業は、立ち上げより継続が難しいと思っています。地域の方の負担を大きくせずに事業が継続できるよう考え、支援しました。

事業を継続!



中

こども・青少年育成のための取組

中高生のための
ボランティア体験
(はあとde ボランティア)

高校生 根本 ケイコ氏

ボランティア活動から得たことは、①責任感を持てるようになった。②自分の経験が豊かになった。③人とのつながりの大切さを学んだ。④ボランティア活動の意義にも気が付いた。これらは、支えてくださった地域の方々のおかげであり、活動を通して将来の夢を持つことができました。

ボランティア体験
で学びました!



山田地区における福祉活動の取組

地域の現状
を把握!

山田地区
社会福祉協議会

地域福祉保健計画の推進に向け、「地区社会福祉協議会の求められていることは?」を考え、地域活動の現状を把握することを目的にアンケート調査を実施しました。住民の福祉ニーズや防災意識について、自治会町内会加入世帯を対象にアンケート1万枚を配布。手作りの調査で見えてきた地域の実態を踏まえ、今後は活動計画を策定します。



高橋 今朝次氏



塩澤 栄氏

つづきMYプラザ
林田 育美氏

中高生を認めることが大事。そして、親でも教師でもなく、子どもたちの成長にとってとても大きな意義のある「第3の大人」との出会いを期待しながらサポートしています。「はあとde ボランティア」は中高生にとっても大人にとっても気付きの場であり、「顔の見える地域づくり」につながっています。

顔の見える
地域づくりに!



課題解決に向けて
支援します

都筑区社会福祉協議会
阪野 圭二氏

いつも、地区社協の皆さんの自主性を重視し、アンケートを作成、配布、回収するプロセスを大切に支援をしました。引き続き、課題解決に向けて支援をしていきます。



Yokohama City Breakers によるダンス

フォーラムを締めくくって
ダンスを披露

小さな子どもや障害がある子ども等もチームに参加。ダンスの素晴らしさ・楽しさを伝えています。



第2期都筑区地域福祉保健計画「つづき あい」とは？

都筑区地域福祉保健計画「つづき あい」は、誰もが住みなれた地域で安心して暮らすことができることを目指しています。

区民、地域、団体、企業と都筑区役所等が、地域課題に対してともに取り組み、**人と人との「であい ささえあい わかちあい」**の仕組みをつくり、行動していくための計画です。

平成18年に策定された第1期都筑区地域福祉保健計画(5か年計画)に引き続き、第2期都筑区地域福祉保健計画(平成23～27年度)を策定し、推進しています。

基本理念 人と人との「**であい ささえあい わかちあい**」

構成

連合自治会町内会エリアごとに地域の行動目標を定めた「地区別計画」とともに、都筑区役所・区社会福祉協議会の行動計画、地域ケアプラザの行動計画で構成されています。

第2期計画ではどんな取組を進めるのか？

方向性1

顔の見える
地域づくりを
進めます

地域での「つながり」を大切に、地域住民をはじめ、地域の様々な主体が、連携・協働し、地域課題の解決に取り組んでいけるよう顔の見える地域づくりを進めます。

方向性2

幅広い区民参加で
活動や取組の
輪を広げます

地域の課題解決に向けた主体的な取組を区全体に広げていくとともに、ボランティアニーズへ対応していけるよう、幅広い区民参加により、活動の輪を広げます。

方向性3

必要な人に支援が
届く仕組みづくりや
取組を進めます

支援が必要な人の把握や、情報提供のあり方等について検討を行い、誰もが支援を受けられるような仕組みづくりや取組を進めます。

第3期都筑区地域福祉保健計画に向けた アンケート調査を実施

誰もが、安心して自分らしく健やかに暮らせる地域づくりを目指して、一人ひとりが健康づくりに取り組めるよう、健康と地域等についての区民の実態調査を実施しました。

1. 調査期間

平成26年1月16日(木)～29日(水)(2週間)

2. 調査対象

都筑区内にお住まいの満20歳以上の区民8,000人

外国籍区民を含む無作為抽出

3. 回収数

3,632件(回収率45%)

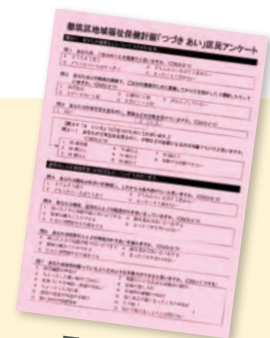
4. 調査項目

- (1)健康感
- (2)地域とのつながり
- (3)地域の活動
- (4)生きがい

5. 調査方法

郵送調査 無記名式

【お問合せ】福祉保健課事業企画係 TEL045-948-2344 FAX045-948-2354



アンケート票

アンケートに
ご協力ありがとうございます！
ごぞいませ!



つづき

※調査結果については、分析が終了次第お知らせいたします。